

目の健康をチェックする『Eye 瞳測定』がわかさ生活書店に設置されました

QD レーザが、わかさ生活様と共同開発したヘルスケア機器『Eye 瞳測定』が、京都四条烏丸のわかさ生活書店の店頭で設置されました。この測定器を使うと、視力・目の渇き・疲れ目・乱視レベルを、自分で簡単に測定できます。

目の総合健康企業である株式会社わかさ生活様（本社京都市下京区、代表取締役：角谷建輝知様）と、「見える」の健康寿命を延ばすという目標を掲げている当社は、2020年2月より共同で、従来よりも身近で手軽な視機能測定方法の開発をすすめてきました。その中で、わかさ生活様より、ご来店のお客様用の視機能測定装置のご提案がありました。これを受けて、当社のレーザ網膜投影技術を使った小型の複合視機能測定装置が誕生しました。わかさ生活様はこの試作機を『Eye 瞳測定』と名付けて、わかさ生活書店（京都市下京区四条通東洞院東入立売西町66 京都証券ビルB1F）に設置しました。8月3日よりご来店のお客様へのサービスとして、目の健康状態をセルフチェックしていただいています。

『Eye 瞳測定』（写真）の使い方は簡単です。本体の測定窓をのぞきながら、音声ガイドに従ってボタンとレバーを操作します。視力・目の渇き・疲れ目・乱視レベルを、3分程度で知ることができます（注1）。



写真：「Eye 瞳測定」

注1「Eye 瞳測定」による目の健康チェックは疾病の診断、治療若しくは予防を目的とするものではありません。

この機器はヘルスケア機器（非医療機器）の開発を目的とした研究試作機です。今回開発した測定装置は、QD レーザで培った網膜投影技術を活用し、人間の眼の屈折力（注2）と、様々な状況での見え方（視力や調節力）を、卓上サイズのコンパクトさで測定できるものとなりました。また、測定の際には、特定の介添え者も必要ありません。従来は、大掛かりな機器を何台か使い分けて測定していたものを一台に集約、更に、単体複合測定機として大幅な小型化を実現しています。

注2) 眼鏡店で、D:ディオプタと呼ばれるもの。処方する眼鏡の度数の目安となります。

『Eye 瞳測定』による目の健康チェックは、厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針[1]」に基づいて実施されます。わかさ生活様と当社は、双方で倫理規定と規則を策定して倫理審査委員会を設置し、「小型複合視機能測定装置の観察的評価」に関する研究計画書を共同で作成しました。今後、この医学系研究に基づいて装置の改良を進め、広く一般の方々にお使いいただける目の健康状態のセルフケア機器の普及に努めます。

[1] <https://www.mhlw.go.jp/content/000757566.pdf>

<本リリースに関するお問い合わせ>
株式会社 QD レーザ E-mail:info@qdlaser.com